

創立百二十周年記念事業、計画の再構築すすむ

式典は今秋10月22日(土曜日)、県立武道館(佐久市駒場公園隣接)で

本校百二十周年記念行事は、昨年延期を余儀なくされましたが、再度新たに準備を進め開催することとしました。一九〇二年(明治三十四年)に創設された本校は、近い将来、野沢南高校との再編統合によって、進取の学びで未来を牽引する拠点校へと更に大きく飛躍しようとしています。

この節目に、豊かな人間性と高い学力を育む進学校として、百二十年にわたり内外に幾多の優れた人材を輩出してきた歴史を想起し、若者たちが新たな未来に向かって進む糧となるよう、記念事業を実施したいと思います。

記念事業の全体像

記念行事	2022年10月22日(土) 11:00(受付開始) 記念式典 13:00~14:00 長野県立武道館 記念フォーラム 14:10~16:30 長野県立武道館 祝賀会 17:00~19:00 一万里温泉ホテル
記念誌発行	『百年史』以後の20年間を記録 『百年史』の構成を基本 電子版作成、岳南会 HP に掲載 2023年2月印刷・製本・配布(予定)
母校支援	教育環境整備 学校空調設備・理科実験室プロジェクター・生徒会ビデオカメラ等、学校要望の設備・備品
TV番組等の制作	記念式典や学校紹介番組等の制作・放映 86回生(卒業30周年)の寄付金活用・一部放映済
岳澄会美術展	第26回岳澄展 8月11日(木)~16日(火) 野沢会館 2F

なお、記念フォーラムでは『佐久の風土と北高、そして未来』をテーマに、次にあげた卒業生の皆さんにご参加をいただく予定です。

- い で は く (第56回) 作詞家 日本音楽著作権協会 前会長
- 吉岡 忍 (第63回) 日本ペンクラブ 前会長
- 佐々木 剛史 (第72回) TLO 京都社長 京都大学特任教授
- 原 真人 (第76回) 朝日新聞東京本社編集委員
- 小泉 修一 (第78回) 脳科学者 山梨大学医学部教授
- 青木 理 (第81回) ジャーナリスト
- 小木田 順子 (第81回) 幻冬舎新書編集長

<参加申込み>

同封のハガキに必要事項をご記入の上、7月末までに申し込みください。切手は不要です。
なお、祝賀会会費6,000円は当日受付で徴収します。
※申込みは岳南会 HP から受け付けています。

※新型コロナへの対応

昨年同様、「普通に記念行事が開催できる」ことを前提に準備を進めています。やむを得ず計画を変更する場合は、岳南会 HP および電話、メールなどで速やかに連絡します。

■ 応援練習も頑張っています

「コロナ禍の中、以前のような応援練習は実施できません。それでも今年度は清水和奏応援団長の指揮の下、一年生全員が校庭に整列し、校歌等の練習をしました。はじめはあまり出なかつた声も、次第に大きくなっていき、昔とちがってスマートな応援練習となりました。清水団長コメント「無事に二日間終わってよかったです。団員一人一人のことで開催できるか心配でしたが同窓会の人達とも相談し、アドバイスをいただき心強かったです」



◆◆ お知らせ ◆◆

『学友林地譲渡について』

当岳南会所有の山林の土地を売却いたします。購入をご希望の方は事務局までお問合せ下さい。
地籍：佐久市前山小宮山鎌取場 1556-3 / 地目：山林 / 面積：6,366㎡

【おことわり】この臨時号は、令和2年度・令和3年度岳南会活動協力金にご賛同いただいたみなさまにお送りしております。

岳南会ニュース

臨時号

発行
令和4年6月1日
長野県野沢北高等学校
岳南会
TEL 070-4306-5364
FAX 0267(63)5290
印刷 KAN-PRO



岳南会会長
吉岡 徹
(第57回)

ここ佐久の地を囲む四方の山々は、今まさに「山滴る」と形容されるに相応しい濃淡様々な色合いの緑に覆われています。

その一方で私たちの日常を大きく変えてしまったコロナ禍は三年を超えてなお終息する気配を見せておりません。

そんな中ではありますが、会員の皆様におかれましては恙なくお過ごしのことと存じます。

この度、本校開校120周年記念事業実施の改めのお知らせと、私たちの現下の最大の課題で、皆様の関心も高い「南校との再編・新校創設」問題の進捗状況の報告をさせていただきたく、この「臨時号」をお届けすることと致しました。

① 120周年記念事業について

周年遅れではありますが来る10月22日(土)に開催いたします。会場も県立武道館の大講堂に変更いたしました。改めて多くの皆さんのご参加をお願いする次第です。出欠の葉書(料金受取人払い)を同封しました。期日までに投函ください。(詳細は4ページ)

②「南高との統合・新校創設問題」

この原稿を書いている時点では新校をどこに建てるのか、「校地」について未だ定まっておられません。現在地よりも交通アクセスのよい新しい場所か、あるいは両校のどちらかの現在地に建て替えるかが焦点になるかと思えます。(詳細は3ページ)

③新校の性格付けについて

新設される高校は我が校120年、南校110年の歴史と伝統を受け継ぐ「佐久地域の進学拠点校」とするという大枠については両校とも異論はありません。しかし、では具体的に両校の何をどう受け継ぐのかとなると未だ何も議論されておりません。すべてはこれからです。我が校の何を受け継がせるべきか、新校に望ましい「校是」も含めて検討して参ります。ご意見をお寄せいただければと思います。

④学友林地譲渡について

当岳南会所有の山林の残る1カ所(6366㎡)につきましては、立木は売却しましたが土地が残っております。美笹別荘地隣の南斜面、道路付けもよい場所です。譲渡は会員の皆さん優先でと考えております。(詳細は4ページ)

10月にはコロナが収まるか、せめてウイズコロナ状況となり、記念式典で皆様とお会いできることを祈っております。



© 田原実夫 (第60回)



岳南会副会長
学校長
柳沢 敬

岳南会の皆様におかれましては、平素より物心両面にわたり、本校に温かいご支援を賜り心より御礼申し上げます。

四月の人事異動で県教育委員会高校教育課より本校に着任いたしました柳沢敬と申します。もとより微力でございますが精一杯尽力いたします。様々な面で岳南会の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年度(令和三年度)の卒業生は、コロナ禍で受験期を過ぎ、総合型選抜や推薦入試、さらに導入二年目で難化した大学入学共通テストや各種私立大学入試、国公立大学の前期、中期、後期試験と、過酷な状況下でありながら、粘り強く進路実現を目指しました。

その結果として、東京工業大学、名古屋大学などの国公立大学に例年並みの約八十名が合格いたしました。また、地元信州大学には十八名が、早稲田大学や慶応義塾大学をはじめ私立大学には、延べ三百名以上が合格を手に入れました。「例年通り」が通用しない厳しい状況下で、臨機応変に対応

した卒業生の適応力と先生方の的確な指導、また保護者や岳南会の皆様の温かいご支援に改めて感謝申し上げます。

四月には、普通科百六十名、理数科四十名の新入生を迎え、本校の百二十二年目が始まりました。県が推進する未来の学校構築事業「スーパー探究校」の指定も三年目となり、これまで本校が先進的に築いてきた、生徒の主体性を育む探究的学びの更なるステージアップを図ります。具体的には「佐久エリアコンソーシアム」を構築し、地域の先進的な様々な営みと本校生徒の探究的な学びの日常的な接続を目指します。実現にあたっては、岳南会の皆様にご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

本年十月二十二日には、県立武道館において、延期となっておりました創立百二十周年の記念式典が挙行されます。また、地域の学びの拠点となる佐久新校開校に向け、再編実施基本計画懇話会の議論を深めていく必要があります。いずれも本校が校是としてきた、地域をリードする本物の「文武両道」を次の時代に繋げる大事な事業です。岳南会の皆様の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、改めまして宜しくお願い申し上げます。

北・南同窓会、懸案解決にむけ協調

高い志を育む進学校の創設を!!

◇岳南会は野沢南同窓会とともに二〇二〇(令和二年)十月、『野沢北・野沢南二校同窓会連絡協議会(同窓会連絡協議会)』を組織し、今日まで十四回の会議を重ね、両校同窓会の意思疎通を図ってきました。

◇また同時に、両校同窓会長を県教委主催の『佐久新校再編実施計画懇話会』(吉岡道明座長・第68回)に送り、同窓会の意見を反映させてきました。

◇新型コロナウイルスの流行下、設置学科や校地、校舎建築など多くの重要な懸案が未解決のまま残されています。『岳南会再編検討委員会』は、今後も南高同窓会と協調してこうした課題に取り組み、佐久の卓越した進学の拠点を創設するため積極的に学校を支援していきます。



長野県教育委員会の動き

二〇二〇年九月に発表された『再編・整備計画【一次】』では、今年二月には『再編実施基本計画』を決定し、四月から統合新校の開設備に入るとされていきました。しかし、『懇話会』内に設置された新校の校地・校舎に関する『校地検討部会』(花里英一座長・第71回)の審議が進まず、佐久新校の基本計画は新年度に持ち越されています。新校の校地選定には地元や同窓会に多様な意見があります。県教委には幅広い意見の聴取と決定の合理的な説明が求められます。

『同窓会連絡協議会』の活動

『同窓会連絡協議会』は、再編統合に係る懸案事項について協力して意思疎通をはかり、両校同窓会長をおして『懇話会』に反映していくことを目的に活動してきました。発足当初の課題は二つ、新校の学校像の確立と校地の選定でした。学校像については、佐久地域で異なる役割を持つ二校が統一した学校像を示すことができるか、危惧する声が多く寄せられていました。そこで『岳南会再編検討委員会』では早くからこのテーマに取り



教頭
石川 順三

「誇らん哉その伝統」の校歌の歌詞にあるように、昨年120周年を迎えた「超」伝統校であることは着任前から聞いておりました。その栄えある学校にお世話になることは、身の引き締まる思いでございました。

四月の着任式においても、本校の生徒の清々しさや真面目なふるまいを目の当たりにして野沢北高の伝統が現在の生徒にも脈々と受け継がれている様子がよく分かりました。コロナ禍にあつて、今年度も様々な活



事務長
古海 淳

岳南会の皆様には、本校の様々な教育活動にご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、この四月に着任いたしました事務長の古海淳(ふるみあつし)と申します。微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきながら、よりよい教育環境を整えてまいりたいと思っております。何卒よろしく願います。また、創立百二十周年の記念式典が執り行われる節目の年に、本校の事

組み、新校の理念を次のように考え、二〇二〇年八月の代議員会に提案し、承認されていきました。

◎ 新校は、百二十年の伝統に培われた豊かな人間性の涵養と高い学力の伸長を旨とする校風を生かし、「卓越した探究的な学び」を推進して、高い進路希望を持つ生徒の期待に応える教育活動を根幹に据える。

「佐久地域の進学の拠点校を創設する」この理念は『同窓会連絡協議会』の学校像検討の基調として野沢南同窓会にも共有され、二〇二二年二月の「期待する学校像」[期待する学校教育目標]、さらに五月の「具体的な『目指す生徒像』」に結実しました。(詳しくは岳南会HP)そして、県教委の考える学校像に生かされています。課題の二つ目、校地の選定は曲折を経て現在も最終決定には至っていません。『同窓会連絡協議会』では、「通学の利便性に配慮した新しい場所」の可能性を追究し、独自の候補地も示しながら関係各方面と協議してきました。できるだけ速やかに適切な校地の選定を行い、新校舎建設に向けて諸条件を整備する大切な時期となっています。

動が制限を余儀なくされている中、野沢北高の生徒諸君はできることからコツコツと取り組んで主体的に学校の日常を取り戻そうと努力しています。その様子を見るにつけ、子どもがこれだけ頑張っているのだから、大人もしつかりしなければいけないと逆に襟を正すきっかけを作ってもらっています。

昨年度はコロナ禍により延期されました120周年式典も、今年度は実施する予定とのこと。今後も、野北の生徒の良さを尊重しながら、21世紀の不確実な社会に対応した若者に成長するお手伝いができますよう微力ながら力を尽くす所存です。どうぞよろしく願います。

務長として着任し、皆様と共に良き日を迎えられる事を大変嬉しく思っております。

さて、四月に着任して1カ月近くになりますが、生徒の皆さんの礼儀正しく、明るく元気な姿から、日々、パワーをもらっております。事務方なので、生徒との関わりは多くありませんが、私も先生方と一緒に生徒の皆さんを全力でサポートしていきたいと思っております。

岳南会の皆様におかれましては、今後も生徒の活躍にご注目いただき、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

いま、母校では

入学式

令和四年度入学式が、春風香る青空の下、四月六日に保護者も参加し挙行されました。今年度の新入生は普通科百六十名、理数科四十名計二百名の五クラスです。希望と期待を胸に入学した百二十一回生の門出をみんなで祝福しました。



強歩大会

四月二十二日前夜の雨も上がり、当日は良く晴れて暑いぐらいのコンディションの下、昨年からコースが変わった(学校〜岸野〜美笹〜学校約20キロ)強歩大会が実施されました。

以前は秋に、さらには駅伝形式で行われていたこともあったこの行事ですが、全校生徒が春の野山を走り、歩き、さわやかな汗をかいて、無事終了することができました。

